

# 今日 つれづれ



神戸 陸史

〈ハウゼコ〉



太平洋戦争開戦時に、アメリカで強制収容所に入れられた家族の方と、お話しする機会があった。その方は戦前、西海岸で野菜等の販売で成功した日系移民で、裕福な暮らしをしていたそうだ。ところが太平洋戦争開戦直後、十二万人の日系人（1/16以上の血統）を、四十八時間以内に全米の約十箇所の強制収容所に隔離するよう、法律が制定された。

トランク1つの携行しか許されず、財産を没収され、砂漠等の劣悪な環境の強制収容所に押し込められた。プライバシーが無く、トイレの仕切りも無く、衛生状況が悪く、集団食中毒や集団下痢が多発した。その上、アメリカ合衆国に忠誠を誓い、『例え日本軍相手でも戦うか?』『天皇・大日本帝国への忠節を否定するか?』の2つの踏み絵を踏まされた。いずれか1つでも拒否した日系人には、さらに苛酷な悪名高きツールレイク強制収容所に収容された。そこでは、リクリエーション・学校・職場・集会等が禁止され、戦車が収容所を取り囲み、約二万人が密集状態で押し込められていた。

両方とも、Yesと答えた日系人が多かったが、それは生きていくためのやむをえない選択であった。天皇と日本を裏切ることにはできないという想いから、Noと答えた日系人も多く、時には、家族や親戚の中でも意見が割れ、離れ離れになってしまった者もあり、日系社会に深刻な亀裂を引き起こした。かたや、ホロコーストをおこしたドイツ系等には、強制収容が短期間、かつ資産の没収等がなかった。その背景には、有色人種への差別意識が根底にあるとされている。教科書で教えてほしい歴史の1つだと思った。